

2013年度第5回 先端社会研究所定期研究会 (第5回 南アジア/インド班 研究会)

日 時 : 2014年1月24日(金) 16:00 ~ 18:00

場 所 : 先端社会研究所セミナールーム
(社会学部校舎3F)

報 告 : 工藤 正子 氏(京都女子大学現代社会学部准教授)

題 目 : 英国におけるパキスタン系コミュニティの変容 :
第二世代の女性たちによるエスニック境界の交渉
に着目して

概 要

第二次世界大戦後の英国に旧植民地出身の労働移民として流入したパキスタン系移民は、他のエスニック集団と比べて経済的地位が低だけでなく、近年のイスラームフォビアの高まりのなかでムスリムとしても周縁化されてきた。本発表では、こうした在英パキスタン系移民の第二世代の女性たちが、家族やエスニック・コミュニティ、主流社会という重層的な空間を生きるなかで自らの帰属をいかに交渉しているのかを考察する。彼女たちは教育レベルでは第一世代から大きく前進し、一定の職業的地位を獲得した者も多い。一方で、そうした主流社会での地位の獲得が、男女隔離や女性のケア役割と結びつけられた移民社会内の女性性の理念と矛盾するために、結婚市場で周縁化される傾向もみられる。本発表では、第一世代が高齢期を迎えた移民社会における女性たちのケア役割にも着目しつつ、包摂と排除の力が複雑に入り組む第二世代の女性たちの帰属の交渉について議論し、その過程から新たな共同性が切り拓かれる可能性についても考察したい。

報告者紹介

専攻・専門領域

文化人類学。パキスタンから日本および英国への移住者とその家族を対象に、移動、エスニシティ、ジェンダーの交差について研究。

主な著書・論文

1. 2012年 “Mothers on the Move: Transnational Child-Rearing by Japanese Women Married to Pakistani Migrants”, David W. Haines et al. (eds.), *Wind Over Water: Migration in an East Asian Context*, Berghahn Books, pp.150-160.
2. 2011年 「移民女性の働き方にみるジェンダーとエスニシティ：パキスタン系イギリス女性のコミュニティ・ワークを中心に」、竹沢尚一郎（編）『移民のヨーロッパ：国際比較の視点から』明石書店、pp.172-197。
3. 2008年 『越境の人類学：在日パキスタン人ムスリム移民の妻たち』東京大学出版会。

一般公開、多数の参加をお待ちしています。

2013年12月 先端社会研究所